

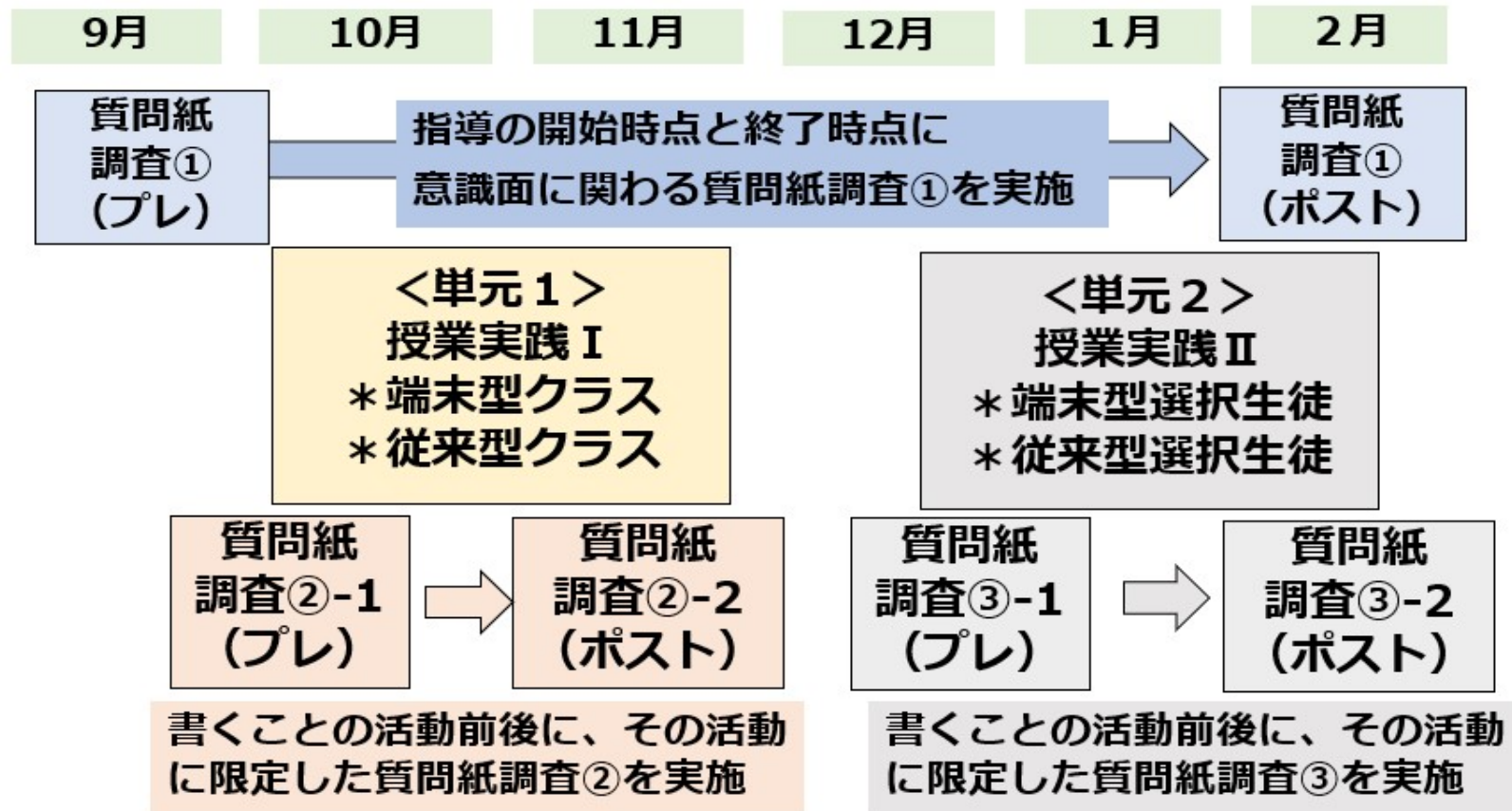
『論理・表現I』 における指導実践報告

ータブレット端末を活用した
プロセス・ライティングの手法を用いてー

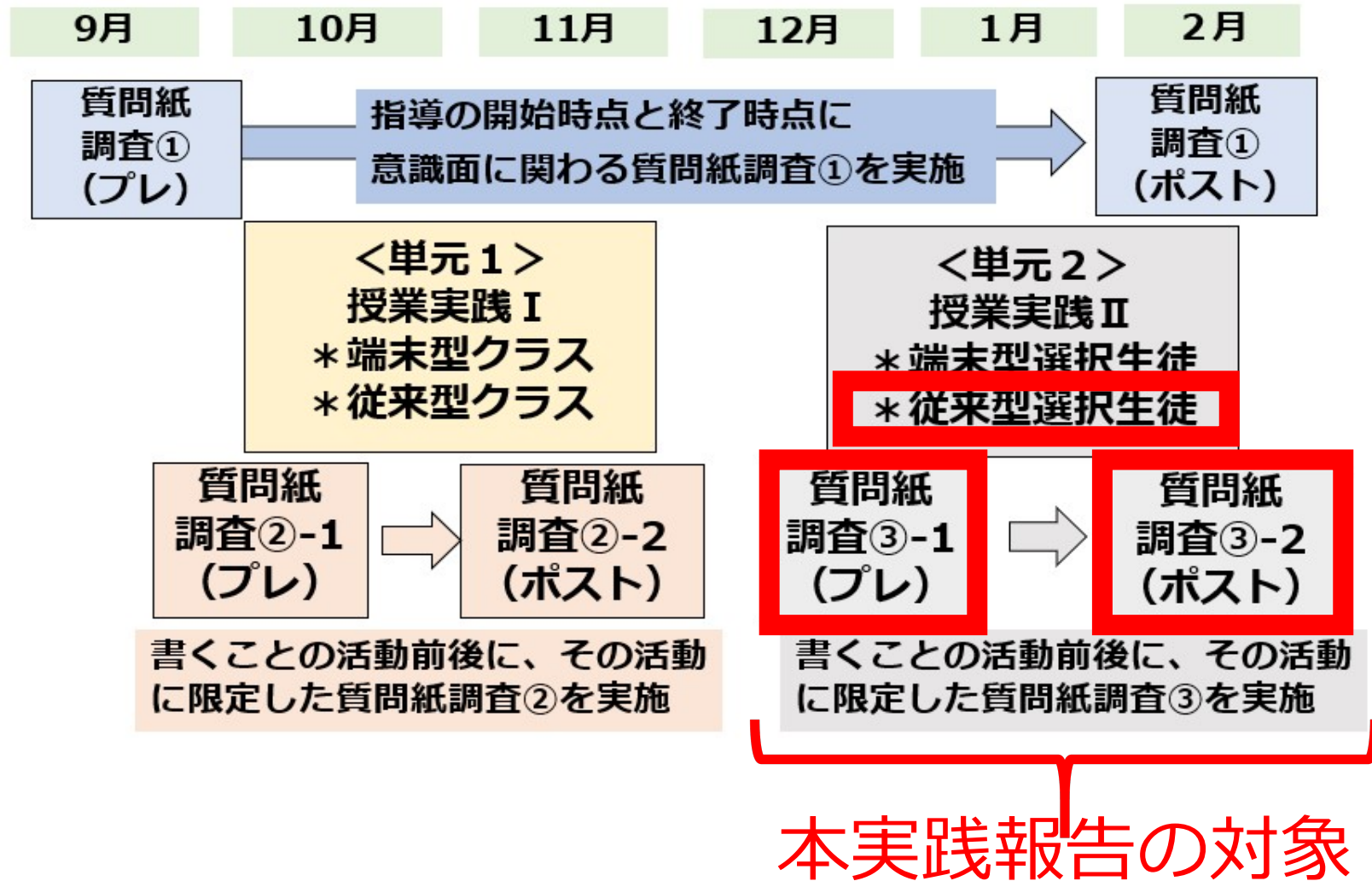
津久井貴之（群馬大学），工藤洋路（玉川大学），
加藤由美子（ベネッセ教育総合研究所），森下みゆき（ベネッセ教育総合研究所）

*本資料は発表時の資料の一部となります。予めご了承ください。

研究全体の概要図



研究全体の概要図



はじめに

- ・ **対 象** 2022年度高1生「論理・表現I」
- ・ **内 容**
あるクラスのタブレット端末を使用したライティングの指導・支援
- ・ **実践研究協力校のカリキュラム 週1回**（1単位）
- ・ **生徒の実態**
 - 書くことへの抵抗感の軽減。
「自分の意見や考えなどを英語で書くことに抵抗感がある。」

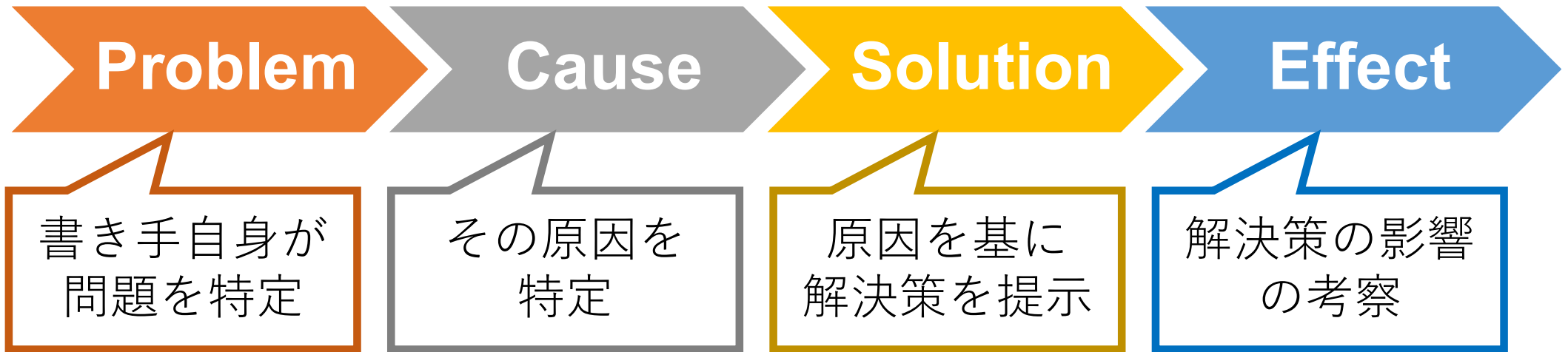
15名（9月末） **クラスの39.5%** → **7名**（1月初）

▲ **論理展開や内容構成が不明確**なライティング多い。

単元指導計画の概要

- ・単元 How can we become foreigner-friendly?
- ・目標

How can you make your community more foreigner-friendly?をテーマに，構想メモを作成して PCSE (Problem-Cause-Solution-Effect)型の論理展開 で100語程度の英文を書くことができる。



単元（5時間）の指導計画

時間	主な言語活動・学習等	家庭学習等
1	○外国人観光客やこれから日本に移住を考えている外国人向けのインターネットの動画を視聴し，感想などを伝え合う。	テーマについて情報収集する。
2	○PCSE型論理展開の説明を聞き，理解を深める。 ・ モデルを提示せず，まず生徒自身が構想メモを作成 する。 ○提示されたPCSE型の論理展開に沿って，メモを作成する。	PCSE型の論理展開に沿って構想メモを仕上げてくる。
3	○PCSE型の構想メモに沿って端的に自分の提案を伝え合う。 ○ 個人作成の構想メモをJamboardでグループ内共有 。 ○構想メモを基に，1回目のライティングを書き始める。 ・次時まで全生徒のライティングに教師がフィードバックを行う。	1回目のライティングを書いてくる。
4	○ 他の生徒や教師のライティング例を基に，論理展開について再度確認 する。 ○ グループ内で協力して英文の校正 を行う。 ・3回目以降のリライトについては，生徒の主体性に任せる。 ・既習文法事項への疑問点をFormsで集約し，Q&A集を作成してClassroomにアップロードする（次時の文法説明の焦点化のため）。	2回目のライティングを書いてくる。 文法事項に関するFormsに回答する。
5	○リライトや教科書中の文法問題演習など， 生徒各自が学習を選択して単元学習のまとめ を行う。	希望生徒はさらにリライトに取り組む。

5つの支援や工夫

1

考査のライティング結果×書くこと・グループワークへの抵抗感でグルーピングをして学習や活動を進める。

2

書き手自身が自分のライティングの課題や工夫をあらかじめ Document のコメント機能で書いておく。

3

生徒同士が英文を読み合い、相互にフィードバックを行う活動の支障になる英文の誤りは教師が添削しておく。

4

論理展開や学習中の文法事項に対する教師のフィードバックはコメント中心にする。

5

生徒の実態を捉えてからモデル提示をする。

1

1 考査のライティング結果×書くこと・グループワークへの抵抗感でグルーピングをして学習や活動を進める。

	自分の意見や考えなどを英語で書くことに抵抗感がある	グループでコメントやアイデアをもらうことで、書くことの抵抗感が少なくなると思う	先生からコメントやアイデアをもらうことで、書くことの抵抗感が少なくなると思う。	英語で自分が書いたものを友達に読んでもらいたいと思う	英語で自分が書いたものを先生に読んでもらいたいと思う
とても当てはまる	0	10	20	5	12
まあ	7	19	7	11	15
あまり	25	5	5	19	6
全く	6	4	6	3	5

2

書き手自身が自分のライティングの課題や工夫をあらかじめ Document のコメント機能で書いておく。

3

生徒同士が英文を読み合い、相互にフィードバックを行う活動の支障になる英文の誤りは教師が添削しておく。

4

論理展開や学習中の文法事項に対する教師のフィードバックはコメント中心にする。

5

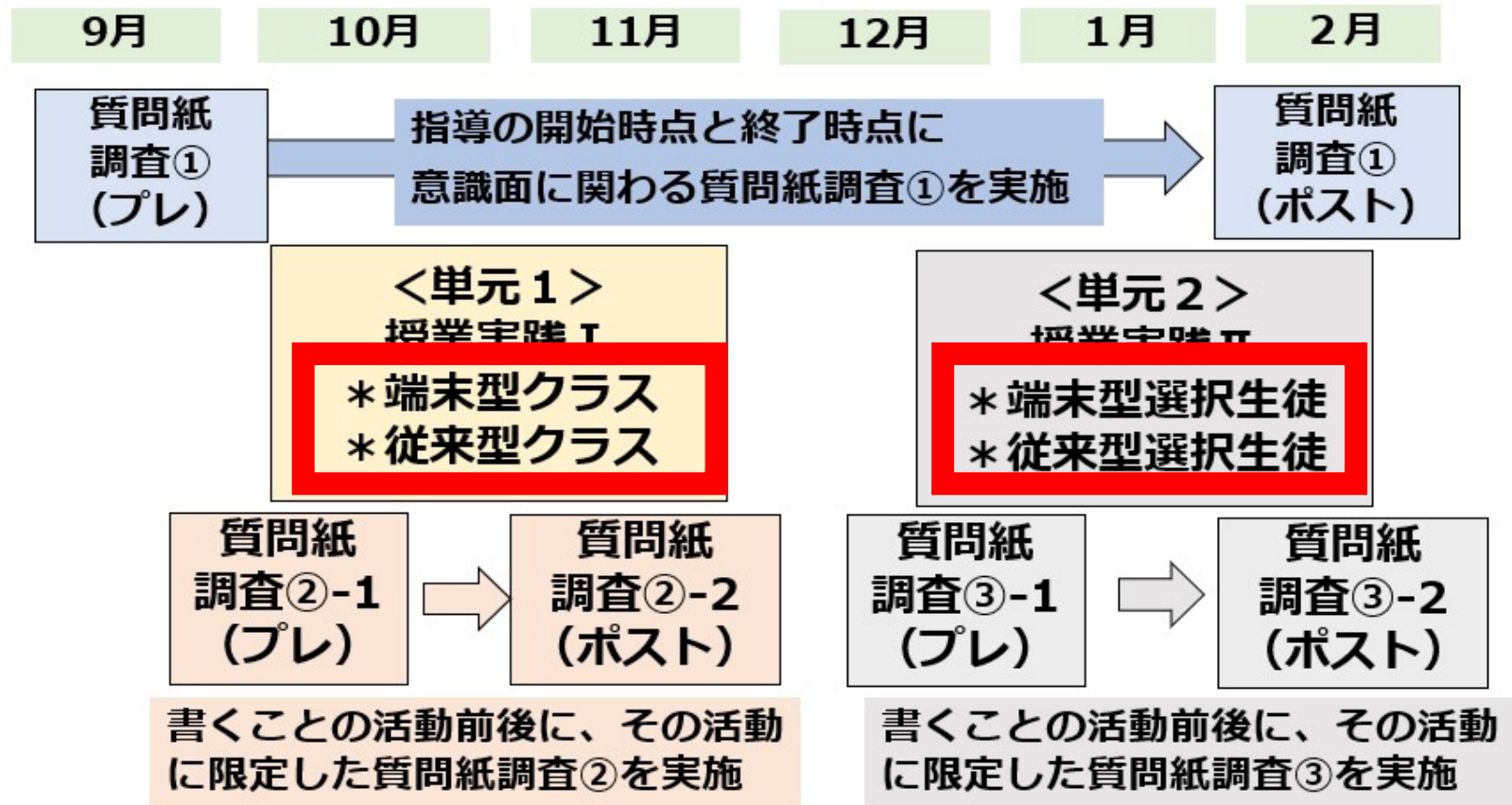
生徒の実態を捉えてからモデル提示をする。

**教師が示した中間段階でのモデルについて
PDFにてご紹介いたします。**

まとめ

項目	事前（1月）	事後（3月）
自分の意見や考えなどを英語で書くことへの抵抗感がない	31名	35名
グループの友だちからコメントやアイデアをもらったりしたので、英語で書くことの抵抗感が少なくなると思う（少なくなった）	29名	35名
先生からコメントやアイデアをもらったりすることで、英語で書くことの抵抗感が少なくなると思う（少なくなった）	27名	36名
英語で自分が書いたものを友だちに読んでもらいたいと今は思う（読んでもらってよかったと今は思う）	16名	31名
英語で自分が書いたものを先生に読んでもらいたいと今は思う（読んでもらってよかったと今は思う）	27名	37名

研究全体の概要図



全体を通して、「端末型」と「従来型」の比較を行った

「端末型」と「従来型」の比較

	端末型学習 (Jamboard・ドキュメント等使用)	従来型学習 (紙のワークシート使用)
ツールの 特徴や 印象	<ul style="list-style-type: none"> ■ プロセスの可視化・共有がしやすい (単語・フレーズレベルでしか言語化できないアイデアも載せやすい) ■ 色の影響もあり, 視覚的に華やかな印象 	<ul style="list-style-type: none"> ■ しっかり英文を書くフォーマルな学習を行う ■ 手書きなので, 生徒の人柄が見える気がする… (手書きも捨て難い…)
使用言語とアウト プット 傾向	<ul style="list-style-type: none"> ■ (事前の指示がなかったため) 自然に日本語での共有になったため, 多くのアイデアが出た結果, それを整理するための教師のサポートが必要になった 	<ul style="list-style-type: none"> ■ シートでは, 活動の指示や質問などが英語で書かれているため, 生徒も自然に英語で書いていた
協働学習の進 め方	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業外も含めて, 常に共有が可能で, 共有作業と個人作業が同時進行する ■ 生徒間でカジュアルな意見交換がしやすい (SNSの影響か) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 共有は授業内で教師が指定するタイミングで行う ■ シートを交換し合って, 個別作業でコメントを書く
必要な スキル	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多様なモードの作業を一度に行うスキル (= multi-modal) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1つのモードの作業を集中して行うスキル (= uni-modal)
指導や 教師コ ント ロール	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学習状況に関する多様な情報をいつでも閲覧可能 (オンライン指導) ■ 机間指導と画面指導のバランスが必要 (教室にいるのに画面指導だけだと罪悪感がある…) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 机間指導には限界があるため, 提出後に個別に確認 (オフライン指導) ■ 教室内での全体指導と机間指導のバランスが必要